

政策 2 - (3) -

1. 政策及び15年度重点施策等

政策	専門性の高い調査研究の実施
15年度重点施策	金融環境に応じた調査研究の実施 庁内へのフィードバックの充実

2. 政策の目標等

分野	情報
課題	金融行政の専門性向上のための情報収集・分析

3. 政策の内容

金融をとりまく環境は情報通信技術の発展等により、更に高度化、複雑化、国際化等が進展してきています。

このような金融情勢の変化に的確に対応し、立ち遅れることなく適切な行政運営を確保していくに当たっては、専門性の高い調査研究を行うことが重要となっています。

これを踏まえて、金融環境に応じた調査研究を実施するとともに、庁内へのフィードバックの充実を重点施策としました。

4. 平成15事務年度における事務運営についての評価

(1) 金融環境に応じた研究の実施状況

平成15事務年度は、研究成果として、合計11本(昨事務年度は4本)の研究論文(ディスカッション・ペーパー)を取りまとめました。これらの論文は、電子金融取引、金融コングロマリット、金融再生、信用リスク評価モデル、信託制度と多岐にわたっており、本数・分野の多様性ともに充実しています。また、金融庁ホームページに全文公開するとともに、印刷物を研究機関、主要大学図書館等約500箇所配布しました。

これにより、金融環境に応じた、学術的にも行政上も意義のある有益な研究を実施できたと考えられ、対外的にも幅広く周知し議論を喚起することができたと考えます。

(2) 研究成果の関係部局へのフィードバックの状況

ワークショップ・研究会の開催

研究論文の公表に併せ、『金融研究研修センター・ワークショップ』を、計3回開催しました。ここでは、庁内一般職員に対し、研究内容を分かりやすく説明しながら議論を行ったことから、研究成果に対する庁内職員の理解が促進されたと考えます。

また、研究官の研究活動の一環として開催した「電子決済システムリスク研究会」「金融コングロマリット研究会（第二期）」「『倒産関連法制の機能の検証と企業の資金調達行動への影響』研究会」「外国金融制度研究ワークショップ」は、合計 21 回に上りました。これについても、庁内一般職員が自由に参加できるため、学界・実務界の最新情報に接し議論に参加できる身近な機会として有益であったと考えます。

昼休み勉強会等の開催

最近の金融実務に関する勉強会では、多忙な庁内職員に対し、身近な場所で専門知識を習得できる格好の機会を提供できたと考えます。

昼休み勉強会についても、外部講師から最先端の理論や実務経験を踏まえた講話を聞き議論することを通じて、視野を広げ幅広い分野の知識を得られる貴重な機会となっていると考えます。

国際会議への参加

バーゼル銀行監督委員会では、研究官や特別研究員が、高度な専門能力を活かし、当庁を代表して参加しており、国際会議における当庁の存在感を高めることに貢献したと考えます。また、このような研究成果は庁内に還元されています。

このほか、担当部局からの随時の要請に応じた調査・報告等も行っており、これらの成果は、行政実務に直接役立てられました。

以上から、研究成果の関係部局へのフィードバックの面では、十分な成果があったと考えます。ワークショップ・研究会や各種勉強会では、職員の専門性・先見性向上の機会が提供され、また関係部局との相互交流も促進されたと考えます。

5. 今後の課題

職員の専門性・先見性向上を図っていくためには、研究成果の庁内へのフィードバック・関係部局との相互交流は引き続き重要であり、より一層充実していくことが必要であると考えています。そして、平成 17 年度において、研究会開催の充実化のため、予算要求（金融研究会関係経費の増額要求）を行う必要があります。

また、今後、いままで以上に研究の質を高め、研究内容も金融環境に対応したものを実施していくためには、民間との情報交流をより充実させていくことが重要です。

加えて、引き続き、学識経験者（大学教授）であるセンター長の専門的知見に基づく指導を受けることにより、研究活動の更なる向上、国内外の学界との交流の進展を図っていく必要があります。

6 . 当該政策に係る端的な結論

政策の達成に向けて成果が上がっていますが、環境の変化や取組みの有効性等を踏まえ、取組みの充実・改善や新たな施策の検討等を行う必要があります。(今後、いままで以上に質が高く、より金融環境に応じた研究を実施し、職員の専門性・先見性の向上を図っていくためには、民間との情報交流をより充実させ、庁内へのフィードバック・関係部局との相互交流の一層の充実を図り、また、センター長の専門的知見に基づく指導のもと活動を行っていく必要があります。)